

7. 過 程

- 教材内容に教育目標を具体的に位置づけることは、どの単元でも可能であるとは限らないが、本時では可能である。

to play tennis : テニスは欧米で盛んなこと

to study Japanese : 英語と逆であること

to be difficult for them : 難解であること

to learn Judo : 柔道は国際化されたこと

日本の風俗習慣や伝統文化を通して、国際理解の基礎となる経験を与えることは大切であると考ええる。

ここで、教材内容と教育目標との関連が一体化され、具現化への第2の手だてとなる。

留 意 事 項

- 日本語習得や柔道練習の絵を見て、対話の場を構成し、英語で質問したり答えたりしやすい条件を設定する。
- つまづいたり、場に応じて応答できなかったりしたときには、ヒントを言い合って学習が成立するようにさせる。
- 身近で親しみやすく、簡単な場を構成して、進んで英語の対話ができるようにさせる。
- 東京に来てから、1年間のうちに、日本の言葉も歌も分かるようになり、日本の友だちと親しくしている場面を、国際理解の視点からも触れるようにしたい。教材内容を理解させる程度に留めておく。

(5) むすび

教育目標を各教科の授業に関連づけて具現化を図ることは、極めて大切なことであるが、具体的な過程や方法は十分理解されているとは言えない。

本実践例は、教科の特性が十分配慮されているとはいいい難いが、留意すべき手順と手だてが具体的に示されている。

要約すると、次の事項が特に重要であると思われる。

- 教育目標、重点目標、努力事項、実践事項

- 留意事項に教育目標を具体的に位置づけることは、授業を展開していくうえで大切なことである。指導の重点化を図り、理解を深化させ、教材の持つイメージを活性化させていくうえからも大切であると考ええる。

ここで、留意事項と教育目標との関連が一体化され、具現化への第3の手だてとなる。

学 習 内 容 ・ 活 動

(4) Language activities (言語活動)

提示 4

A : Did he (she) ~ ?

B : Yes , he (she) did .

- ① いろいろな絵を見て疑問文を作り、Yes で応答したり、No で応答したりする。
- ② 簡単な場を構成して疑問文を作り、英語で自由に表現し合う。

- 学習活動に教育目標を具体的に位置づけることは、有効で、しかも重要であると考ええる。

特に、本時のめあても、教材内容も、留意事項も、学習活動に組み込まれることによって、実効性がいっそう高まることになり、一連の具現化の手だてが、ここに集約される。

ここで、学習活動と教育目標との関連が一体化され、具現化への第4の手だてとなる。

学年目標、学級目標、(個人目標)を具体化し、実践事項を指導計画に位置づけること。

- 具体化された実践事項を、学習目標(本時のめあて)、教材内容、留意事項、学習活動に具体的に位置づけること。
- 特に、実践事項と単元の一体化を図り、学習目標(本時のめあて)、教材内容、留意事項に位置づけられた実践事項を、学習活動に組み込んで実効性を持たせること。